

そうね！ そうだよね！

認めて、受け入れて、すべてを肯定する



4月に臨時休業をいただいて、東京の義父に会ってきました。
思い出の「カステラキャラメル」を持って（笑）

勉強会の講師、東京出張相談などハードスケジュールな上京でしたので
義父とはかかりつけの病院で待ち合わせ。

このかわら版や太田東西ブログをご愛読の方はご存知だと思いますが
義父は認知症です。ただ今82才。80を過ぎてから顕著になりました。

1年3ヶ月ぶりの再会。

「あなた、誰でしたっけ？」 言われたら、どうしよう・・・
ハラハラドキドキの対面でした。

漢方には精通していても、介護には浅学な太田東西。しかしそんな私でも認知症の患者さんに対して「私のこと、覚えている？」「私、誰でしょう？」相手を試すような質問をしてはいけないことは知っています。

「やあ～お父さん、久しぶり～」
(笑顔であいさつしても、内心はドキドキ・・・)

隣に腰を下ろすと、義父は笑顔で私に返事をしました。
「お久しぶり、元気そうだね」
(オレのこと、ちゃんとわかっているかな？ 次、どう切り出そうかな？)
と、思っていたら

「この人、誰だかわかる？」
妻がストレートに質問したのでした～～(´ ˘ `;)

「憲一くん」

お、おっ、覚えてくれていたのです・・・(泣)

去年は娘(麻里)に「麻里は、来たのか？」と尋ねるくらい、かなり物忘れがひどかったのですが、デイサービスに通うようになって症状が改善していったショートステイもできるようになりました。

義父はもともと人付き合いが苦手ゆえに、他人の目を気にし過ぎるタイプ。みっともない自分を見せたくないといったプライドから、引きこもりがちになっていました。それがどんどん脳の退化を加速させていました。

かわら版2月号の記事にしましたが、そんな「引きこもり夫」は必然的に「妻依存症」になります。すると全面依存された妻が心身の健康を崩して「夫婦共倒れ」といったパターンになるケースをよく見聞します。

それを見越して、昨年末、義母を長崎に呼び寄せ、2人を引き離しました。

それから義父は、しっかりしてきたのです！

環境の変化は意識の変化をもたらします。「マンネリ生活」はいけません。

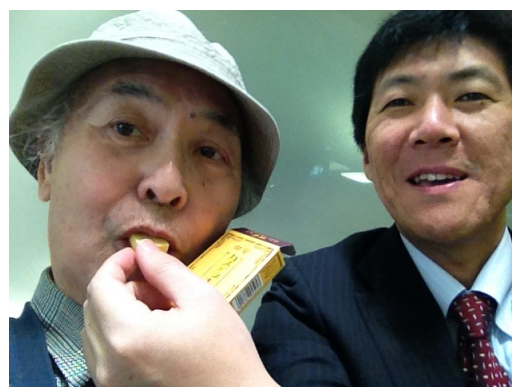
久々のドキドキの再会。

しかしそれは杞憂に終わりました。

「憲一くん、コンピューターに入力してあるから」
たまに意味不明??なことを話し出しますが(笑) 会話はできました。

病院では、血尿が出たということで、診察を受けていました。
診断結果を聞くために、婿の私も診察室に同席。
CT 画像から前立腺がんの進行による出血ではないということでしたが、こんな機会もめったにないと思い、「先生、質問させてもらっていいですか？」
主治医に専門的な事項をいろいろと質問しました。

「よかったね、お父さん、体は大丈夫だよ」（ただ、頭がちょっとね・・・）



全てを終え、お土産のカステラキャラメルを食べさせてあげました～（笑）

ところで読者のみなさん、認知症の義父の顔、どう思われますか？
久々見た義父の顔、私はとっても穏やかで、やさしくなったと感じたのです。
頑固で融通がきかなくて、義母に威張っていた義父でしたが、もともとは
「心のやさしい人」なんです。それが顔に出ていました。
その人が生きてきたように、顔はその人の人生を表し、最期を迎えるものです。

義父は婿の私のことが、自分で言うのもなんですが「大好き」です(*´ `*)
なぜって？ それは私が
「そうね！ そうだよね！」 「すごいね！」 「よく頑張ってきたね！」
義父を認めて、ほめて、ねぎらう言葉を会うたびに掛けてきたからです。

病院の帰路、タクシーの車内で義母が
「違うでしょ！」 「そうじゃないわよ、もう忘れたの！」
義父に言っていたので

「お母さん、お父さんに理屈で、正誤で答えちゃいけませんよ！
間違ってもいいから、まずは『そうね』って言ってあげてください。
まず『そうね』って肯定してから、上手に正しい道に導くんですよ。
お母さん、積年の恨みからか『夫の否定』がクセづいていますよ！（笑）」

しっかり指導してきました(*´ `*)

義父は母子家庭で育ち、しかもその母から疎まれていました・・・
きょうだい間での差別。母からは「命令」と「否定」の言葉ばかり。
親の愛情、特に「母性」を知らないまま大人になりました。

だから結婚して家庭を持っても、不器用な夫であり父でした。
「妻への愛情とは、真面目に働き、給料を家に回し、浮気しないことだ」
義父世代の男性は、そう信じて生きてきたように思います。
男の甲斐性は「仕事」「経済力」がすべてだと。

その結果として晩年、妻や子どもたちとのコミュニケーションがうまく
とれずに、孤立している男性を多く見かけます。
「今までありがとう」「君のおかげだよ」「苦労をかけてすまなかった」
そうした言葉を素直に言える年配の男性は滅多にいない。
威張って、意地を張って、寡黙になって、そうして気づかないうちに
認知症になっていたりします・・・
義父のようなプライドの高い、見栄っ張りの男性に多い傾向があります。

だからといって私は義父を「自業自得」と否定したくありません。
そうした男性は、実は自分に自信がなく、自分を肯定できないのです。
だから
「威張る」のです！ 「謝らない」のです！ 「弱みを見せない」のです！

だから
家族がそうした知識を持って、当該人の「母親」になって、「母性」を持って
「そうね！」「そうだよね！」「えらいね！」「よく頑張ってきたね！」
その人の人生を認めて、肯定してあげたいと私は思います。
ウソでもいいんです、ただただ肯定してあげれば。わかってあげれば。

昭和を頑張って生きてきた夫婦の多くは、晩年は「息子と母」になります。
義母には「母親の自覚」を再度諭してきました～（笑）



徘徊老人を連行中(*´`*)



カメラマンの娘を見つめる父（笑）